

非結核性抗酸菌症の治療に関する調査について

非結核性抗酸菌症の治療は薬物治療が主となりますが、病変が限局している場合など手術療法を併用する場合があります。しかし手術療法の長期的な予後についてはまだよくわかっていません。そこで私たちはこれまで当科で手術を行われた非結核性抗酸菌の患者さんを対象にその予後について調査を実施中です。この調査研究では、患者様ご自身に直接の利益はありませんが、検査による合併症リスクを将来減らすことができる可能性があります。この調査研究では新たに患者さんの負担やリスクが生じることはありません。

この研究について詳しくお知りになりたい方はいつでも遠慮なく担当の先生にお申し出下さい。他の患者様に支障がない範囲で、調査に関する資料（調査の実施計画書など）や利用させていただく患者様の情報をお見せ致します。またあなたご自身に関する情報について、調査へ利用されることをお断りになる場合も遠慮なくお申し出下さい。一切の情報を調査研究に使用しないように致します。

○ご利用させていただく情報

年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、PS、罹患年数、並存症、血液所見、画像所見、手術の術式、手術前後の化学療法内容、予後、有害事象

○プライバシーは守られます

この研究結果は学会や学術雑誌で公表しますが、結果は情報をまとめた形で報告され、あなたのお名前などの個人情報は一切わからないようにしますので、プライバシーは守られます。

日本赤十字社和歌山医療センター
研究責任者 呼吸器内科副部長 池上 達義